

ヨトウコン-H 技術情報

ヨトウコン -H の上手な使い方(施設)

- 施設内の上部、なるべく天井に近い部分に処理して下さい。
- 内部にカーテンを付ける場合には、カーテンの内側に処理して下さい。
- ハウスの間口 10m につき、1 本の割合でハウスの端から端まで張り渡すと、100m/10a 相当になります。
(間口 5m に一本で 200m/10a 処理)
- ハスモンヨトウ成虫の密度が少ない時から設置すると効果的です。
- 設置時にハスモンヨトウの幼虫密度が高い場合には、殺虫剤を併用して下さい。
- 野外の交尾済みの雌成虫の侵入を防ぐために、開口部に防虫網等を設置して下さい。
- 効果の持続期間はおよそ 3 ～ 4 ヶ月です。(ハウス内の気温で左右されます。)
- 裾換気の場合、有効成分が換気部分から流れ出てしまいます。下部で換気するハウスでは効果が低下する場合があります。

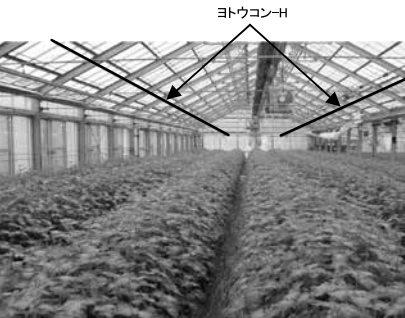
使用量の目安

- 処理する時期により、ヨトウコンーH の処理量を調整してください。
- 下表は目安です。ハスモンヨトウの発生量・気温等により適宜調整して下さい。

時期	ハウス外でのハスモンヨトウ発生状況	処理量 /10a	その他
春～夏	発生が始まる。密度は徐々に増加する。	150 ～ 200m	防虫網を併用
	ハウスへの飛び込みが見られる。		
夏～秋	7 ～ 9 月に発生がピークに達する。	200m	防虫網を併用
	ハウスへの飛び込みは多い。		
秋～冬	発生が徐々に収まる。11 月以降はハウスへの飛び込みは少ないか、なくなる。	100 ～ 150m	防虫網を併用 (初期)
冬～春	野外での発生はない。	100m	
	ハウスへの飛び込みは見られない。		

ハウス内設置例(イメージ)

施設のマーカー線等を利用して上部に張り渡します。(写真中の矢印で示した太線がヨトウコンーH の設置位置を示します) ただし、金属製の番線等に付けると日中、金属部分が熱を帯びることで蒸散しやすくなり、残効が短くなることが予想されます。設置の際は熱を帯びにくいひも等を張り、その部分に付けることをおすすめます。

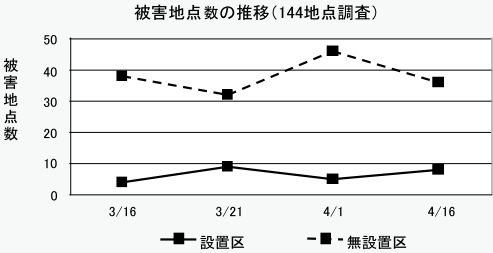


ヨトウコン - H 試験成績

1. 大葉(施設)のハスモンヨトウに対する効果

(大阪農林技術センター 1992)

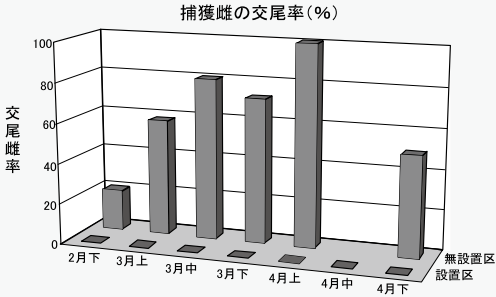
試験場所：大阪府摂津市 現地ハウス
供試作物：しそ(大葉) 1991年9月6日定植
処理月日：1991年11月16日、
1992年2月25日(2回処理)
処理薬量：200m/10a × 2回



2. ぶどう(ハウス栽培)のハスモンヨトウに対する効果

(岡山農試 1996)

試験場所：岡山県岡山市古都宿 現地ハウス
供試作物：ぶどう(デラウェア) 6~7年生
12月初旬加温、4月収穫
処理月日：1996年2月5日
処理薬量：200m/10a



新梢被害率(%)の推移

